



横浜市立 瀬谷さくら小学校

学校運営協議会だより

平成28年8月5日
平成28年度・第1号

学校運営協議会テーマ

共に学び、共に創る地域の学校『瀬谷さくら小学校』

～みんなの力で守り育てよう、瀬谷さくら小学校・さくらの子～

自分の命を守り、家族や地域の方々を思いやれるさくらの子を

学校運営協議会会長 網代宗四郎

地球温暖化による影響でしょうか、梅雨だというのにあまり雨が降らずに、真夏を思わせるような暑い日が続いておりますが、皆様にはご健勝の事とお慶び申し上げます。

今年度の主な取り組みと致しましては、次の通り考えております。

児童の皆さんが、安全に安心して登下校できますよう、登下校中の見守りと交通安全指導を 学援隊の方々や、地域の方々のご協力を頂き行ってまいります。

児童の皆さんの学習やクラブ活動の支援を、教育支援部会の皆さんに行ってください。交流会主催の「さくら小地域祭り」をはじめ各自治会・町内会に於かれて、児童の皆さん相互の、地域の方々との児童の、さらに、地域のみなさん間の交流が図られるよう取組いただけようようお願い致します。

学校運営への理解と協力、そして、適切な評価を行いますと共に、運営協議会の活動を皆様にご理解いただくための広報活動を広報・学校評価部会の皆さんと一緒に行ってまいります。

災害から児童の皆さんを何時、如何なる状況の中でも守る為の、学校・保護者・地域等の役割や連携を検討・啓発を致します。

児童の皆さん一人ひとりが自分の命を守る事が出来るよう心掛けていただきたいと思います。長期間の夏休みは、児童の皆さんにとってまたとないチャンスだと思います。

この機会に、地震や風水害等の自然災害について考えていただくと共に、自然災害から尊い自分の命を守るための体験や知識を学んでいただきたいと思います。

リニューアルオープンされたばかりの「横浜市民防災センター」に7月12日研修に行っていました。地震シミュレーターでは、起震車では体験する事の出来ない震度7の横ぶれに加え縦ぶれ(東日本大震災の地震)を体験してきました。

バーに掴まっていて何とか地震が収まるまで堪える事が出来ました。

「自分を救える人は、誰かを救える人だ」と標語が防災センターに掲示されていました。

皆様には、ご健康に充分注意されて、大変暑い夏を楽しく乗り切ってくださいよう心よりご祈念申し上げます。



声をかけ合うことで心が通じ合う

瀬谷さくら小学校 校長 武藤牧子

瀬谷さくら小学校での3年目が始まりました。学校運営協議会での皆さんの熱のこもった話し合いは、常に子供が主役で子供たちのためにできる事を考え学校を支えてくださっていることを痛感します。

今年の児童会のスローガン『声かけで つながる 広がる 心の輪』は、これまで継続してきたあいさつの取組をさらに広げ、子供たちが声をかけ合い、互いを思いやり学校中のみんなが笑顔で毎日過ごせるようにしたいという思いが表現されたものです。声をかけ合うことで心が通じ合い、みんなの心がつながることを願ってのことだと思えます。このようなスローガンを考えられる子供たちの素晴らしさを改めて感じました。それは、日頃から多くの大人の人と接する機会がある子供たちだからこそ考えられた言葉だったのだと思えます。



アメリカインディアンの教えとして、子供たちがどのような環境の中で、どのような生き方を学ぶかを簡単にまとめた文章があります。その中で、共感する言葉を紹介させていただきます。

- ・励ましを受けて育った子は、自信をもちます。
- ・ほめられる中で育った子は、いつも感謝することを知ります。
- ・人に認めてもらえる中で育った子は、自分を大切にします。

そして、

- ・仲間の愛の中で育った子は、世界に愛をみつけます。

これらの言葉は、さくら小学校の子供たちを見守り育ててくださっている保護者や地域の皆様の子供との関係性に共通しているように思います。安全での見守りや声掛け、学習支援での励まし、特別クラブ参加に向けての支援や応援など多くの機会に『子供のため』という信念をもち関わってくださっているのだと思えます。

今年度も全職員は、『子供が主役の学校づくり・子供のためにできる事をする』を念頭に置き、教育活動を進めて参ります。さらに、皆様のご支援をいただきますようよろしくお願いいたします。

1. 瀬谷さくら小学校 中期学校経営方針

横浜市立 瀬谷さくら小学校												平成28年度版		中期学校経営方針 (平成28~30年度)			
学 校 概 要																	
創立	7	周年	学校長	武藤 牧子	副校長	中島 早苗	学期	2	学期制	児童・生徒数	418	人					
学級数	一般級: 14		個別支援級:	3	主な関係校:		下瀬谷中学校		南瀬谷中学校								
学 校 教 育 目 標																	
「自分大すぎ 友だち大すぎ このまち大すぎ さくらの子」																	
○困難なことにもあきらめずに挑戦する子どもを育てます。(知)																	
○物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子どもを育てます。(徳)																	
○自分や人の命を大切に作る子どもを育てます。(体)																	
○小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子どもを育てます。(公)																	
○様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子どもを育てます。(関)																	

<p>学校の特色</p>	<p>□平成22年度に下瀬谷小学校と日向山小学校が再編統合により開校し、地域と共に学び、共に創る地域の学校として地域から親しまれている。 □子どもたちは、素直で優しい。 □児童に寄り添い、児童の課題解決に向け熱心に取り組む職員が多く、全職員で児童の育成に取り組んでいる。 ■家庭とも連携を図りながら基本的な生活習慣への関心を高める必要がある。 ■学力状況調査の結果から、聞く力や話す力をつけ、基礎・基本の定着に一層取り組む必要がある。</p>	
<p>学 校 経 営 中 期 取 組 目 標</p>		
<p>○全教職員で児童一人ひとりを見守り、指導・支援していき、全ての児童が自分に自信をもち主体的に行動し、安心して生活できる学校を目指します。 ・基礎・基本を身に付け、課題解決に向けて粘り強く取り組む姿勢を育てます。 ・善悪の判断ができ、自分を大切にし、他を思いやる心を育てます。 ・望ましい生活習慣を身に付け、進んで健康づくりに取り組む姿勢を育てます。 ・地域の材や人とのかかわりを通して、地域を愛する心を育てます。 ・情報を活用し、様々な今日的課題に対応できる力を育てます。</p>		
<p>小 中 一 貫 教 育 の 取 組</p>		
<p>下瀬谷中 ブロック：下瀬谷中学校：瀬谷第二小学校・瀬谷さくら小学校</p>		
<p>9年間で育てる子ども像</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・将来に夢をもち、未来を切り拓く子ども ・思考力・判断力・表現力を身に付けた子ども ・地域に愛着をもち、地域を大切にする子ども 	
<p>自校の具体的な取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫カリキュラムに向け、学習状況調査による学力傾向の把握や授業公開(年2回)を通じた研究会などにより学習のスタンダードの共有化を図る。 ・自己肯定感や自己有用感の育成に向け、児童の課題を把握し、小中ブロック会議や専任会で得た情報をもとに、自校のスタンダードの改善を進める。 	
<p>重点取組分野</p>	<p>取 組 目 標</p>	<p>具 体 的 取 組</p>
<p>確かな学力</p>	<p>基礎・基本の確実な習得をめざした授業改善や検定、補充学習の効果的な活用を工夫し、学び方を身に付け自分の言葉で考え表現する力を育てる。</p>	<p>①学力向上戦略会議を通して、学力状況調査の児童の学習意識、生活意識等を把握し、具体的な指導の重点を決め、実践する。②漢字検定、計算検定の問題の見直しや実施方法の改善を図る。③重点研のテーマを「一人ひとりのよさを生かし、考えを深め合う子の育成」～本気で学んでいこうとする子ども～と設定し、主体的な学びを追究していく。</p>
<p>担当 研究部</p>		
<p>豊かな心</p>	<p>子どもの問題意識を生かして道徳の授業改善を進め、校内研修を通して、教職員の授業力向上を目指すとともに、自他を大切にする心情や態度を育てる。</p>	<p>①子どもの実態をもとに、道徳の副読本や「私たちの道徳」などの教材を活用し、全学級の道徳授業公開を年1回以上実施する。②縦割り集会や異学年交流を充実させ、人とのかかわりを広げるとともにコミュニケーション力の育成に取り組む。③ふさわしい言葉やあいさつの励行を年間を通して目標に掲げ取り組んでいく。</p>
<p>担当 指導部</p>		
<p>健やかな体</p>	<p>子どもの体育・健康面の姿から課題を明確にし、体育科・保健体育科の授業を中心としながら、教育活動全体を通して健やかな体の育成を目指す。</p>	<p>①校内研修による体育科の授業改善を図る。②体力テストや独自指導等の結果をもとにした、体力向上一校一実践運動を進める。③体力テストの結果や市学力状況調査の意識の結果を保護者と共有するなど、家庭や地域と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図る。</p>
<p>担当 教育課程部</p>		
<p>児童・生徒指導</p>	<p>不登校や問題行動の芽を見逃さないよう教職員の共通理解を図り、子どもの様子を丁寧にみとり、課題解決に向けた取り組みを実践する。</p>	<p>①不登校児童について児童支援専任を中心にカウンセラーや他機関との連携を図り支援計画を立てて実践する。②日々の児童の様子を全職員が見守り、問題の芽を早期に発見するとともに問題解決に向けて、児童支援専任・担任を中心に全職員で迅速に対応する。(マニュアルを作成する)③月に1回は、児童理解、児童指導についての情報の共有を行う。</p>
<p>担当 指導部</p>		

研究・研修	主体的・協働的な授業づくりにむけた授業研究や指導力向上をにつながる実技研修などを充実させ、授業改善・授業力向上に努める。	①社会科・生活科の重点研究に取り組み、一人1回は公開授業を実施し、授業改善に向け研究会を実施する。②道徳授業力向上推進のため、全学級1回以上の授業公開を実施し、生き方につながる道徳の授業づくりを考える。③児童が前のめりになる授業づくりをめざし、学年研等で教材研究を進める。
担当	研究部	
地域連携	学校運営協議会を中心に地域との連携を進め、地域協働参画型の学校づくりを進める。	①さくらの子応援隊による教育支援や学援隊による安全の見守りなど地域との連携をさらに深めるために、地域活動や行事に参加するよう子どもたちに促すとともに、職員も積極的に参加する。②総合的な学習や生活科・社会科の学習で積極的に地域材を生かした学習を計画するとともに、地域の人と関わる機会を多く設定する。
担当	総務部	
人材育成・組織運営	教職員の専門性の向上と教育公務員としての資質の向上、メンターチームが主体的に教師力向上に向けて取り組むような学校風土を構築する。	①メンターチームを10年次以下の教職員で組織し、ミドルリーダーが講師として月1回の授業をともなう研究会を実施する。②個々の教職員の専門性を生かし、メンター研で講師として授業改善の指導・助言を行う。③児童理解や教育活動について全職員が情報を共有し、児童の課題解決に、全職員で取り組む。
担当	総務部	

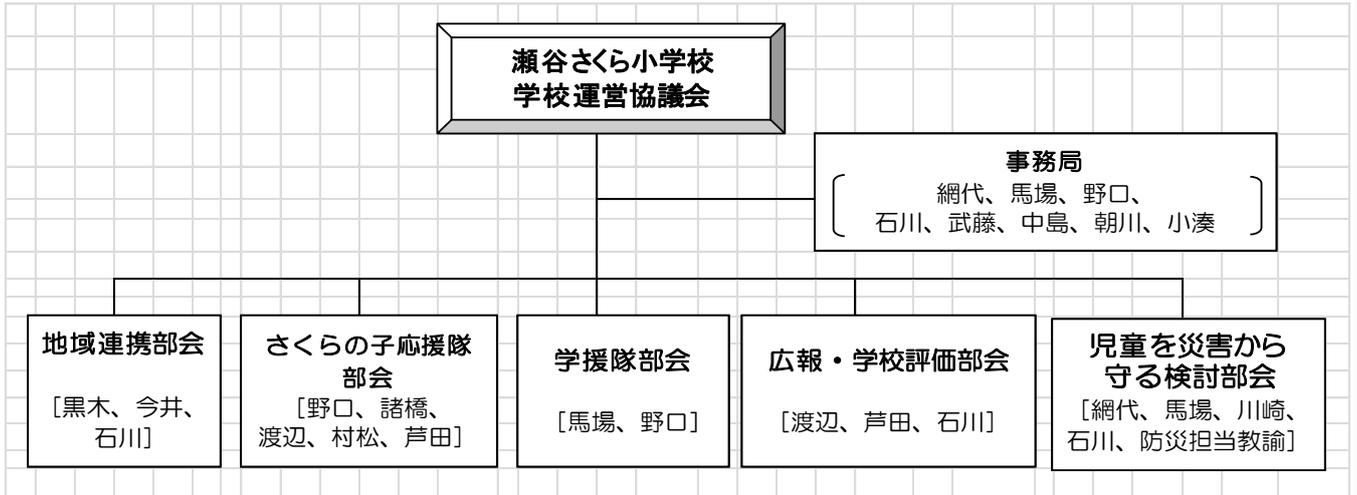
2. 平成28年度 委員と部会構成

5月19日、横浜市教育委員会から平成28年度・学校運営協議会委員の委嘱式が行われました。下瀬谷団地自治会の飯塚前会長に代わって同自治会の川崎会長が、長年当協議会の広報として活躍された西村委員に代わってさくらの子応援隊の村松さん、地域コーディネーターの芦田さんが、新たに委員委嘱を受けました。

引き続き行われた第1回学校運営協議会では、平成28年度事業計画案、部会構成とその担当委員案が承認され、新しい体制がスタートしました。

役職	氏名	区分	所属・役職
会長	網代宗四郎	地域代表	瀬谷第二地区連合自治会 会長 南瀬谷ニュータウン自治会長
副会長	馬場勝己	地域代表	ひなた山地区自治会連絡協議会 会長 ひなた山第二自治会長
	今井保美	地域代表	前ひなた山地区自治会連絡協議会 会長
委員	黒木昭博	地域代表	下瀬谷自治会長
	川崎和人	地域代表	下瀬谷団地自治会長
	村松相司	地域代表	さくらの子応援隊
	渡辺良彦	地域代表	前グリーンハイムひなた山自治会長
	野口元	地域代表	瀬谷さくら小学校学援隊事務局長
	芦田順子	地域代表	地域コーディネーター
	諸橋茂夫	学識経験者	横浜隼人高校教諭
	石川茜	保護者代表	瀬谷さくら小学校 PTA会長
	武藤牧子	学校代表	瀬谷さくら小学校校長
推進員	中島早苗	学校代表	瀬谷さくら小学校副校長
	朝川健太郎	教諭	瀬谷さくら小学校主幹
	小湊清隆	教諭	瀬谷さくら小学校主幹

【部会構成】



3. これまでの成果と課題

平成22・23年度の2年間、文部科学省の委託を受け、学校運営協議会推進校として研究を進め、平成23年度は、学校運営協議会推進協議会横浜大会で提案を行った。これまでの取り組みで、地域共同参画型学校運営の体制が整いつつある。また、学校を中心とした地域の活動が活性化し地域が元気になったという声を聞かれるようになった。

学校運営に関わる成果としては、

- ①学援隊の活動が瀬谷さくら小学校区全体に広がり、120人以上もの地域の方が登下校の児童の見守りに関わるようになったことや警察署との連携が図れた
- ②算数補充学習・算数サポートやクラブ支援等の「さくらの子応援隊」の取り組みが充実してきた
- ③学校評価による教育活動の改善が図れた
- ④地域行事との連携が図れた

ことなどである。学校運営協議会が支える瀬谷さくら小学校は、平成23・24年度と2年連続で横浜市保健優良校、平成24年度横浜市優秀教育実践校、平成25年度横浜市保健優秀校、平成26年度「21世紀・新しい時代の健康教育推進学校優良校」に選ばれるなど、教育活動が高く評価されている。また、平成25年度、さくらの子基金の設立により活動資金について見通しをもつことができた。

今後の課題としては、学校教育目標で掲げた児童の育成に向けた具体的な教育活動への評価とともに学校評価が学校運営の改善に効果的に機能するよう、学校運営協議会での討議・検討内容等見直しをもって研究を進めていく。

4. 平成28年度の取り組み

平成28年度は、児童の育成に向けた具体的な教育活動への評価や学校運営に関する評価の充実を図るとともにPTA及び地域参画の在り方について、検討し、学校支援活動の協働を推進する。

取り組みの視点

- (1)学校運営に関する学校運営協議会の役割と、それに関わる地域人材の活用の在り方
- (2)保護者や地域住民の意向を適切に把握し、学校運営や教育活動に反映させる方策検討
- (3)学校運営協議会による学校評価の在り方と児童の育成に向けた具体的な教育活動の評価の在り方

(1) 事業の具体的な内容及び方法

① 学校運営に関する学校運営協議会の役割とそのために必要な機能、組織のあり方についての見直し

- ・ 学校運営協議会の役割、組織の在り方についての検討
- ・ 瀬谷さくら小学校に有用な組織の在り方
- ・ 地域人材の効果的な活用の在り方

※今年度、学校運営協議会の委員が変わったこともあり、学校運営協議会の組織における部会の活動内容等を明確にしておく必要がある。

② 保護者や地域住民の意向を適切に把握し、学校運営や教育活動に反映させる方策

- ・ 保護者や地域等の思いや願いを把握するためのアンケート調査の実施と分析
(学校アンケート評価だけでなく教育活動評価、授業評価も含む。)
- ・ 学校の広報活動の在り方について検討しその結果や課題等を公表
(学校便り、学校ホームページ、その他広報活動)
- ・ 学校支援組織の有用な活用と円滑な連携方法の検討

③ 各部会の活動と地域人材の効果的な活用について

- ・ 各部会の活動方針・活動の在り方・地域人材の効果的な活用の在り方検討
※今年度は、地域コーディネーター養成講座への参加はありません。

④ 地域参画型学校運営協議会の在り方や、積極的な活用方法の在り方の検討

- ・ 支援組織への参加意識を高める学校運営協議会の広報の在り方の検討
- ・ 課題の整理と、結果の保護者・地域・関係機関への広報
- ・ 有用な学校評価方法の開発と積極的な広報活動の在り方検討

⑤ 学校運営協議会設立による成果と課題の収集

- ・ 合議機関として、その役割と責任を果たしているか。
- ・ 保護者、地域等に向けて学校運営協議会の活動を広報するとともに、学校評価を通して、設置したことについての評価を受ける。

新役員紹介

学校運営協議会委員になって

児童を災害から守る検討部会 川崎和人

下瀬谷団地と旧下瀬谷小学校は、相前後して出来て以来、お付き合いは深いものがあり今日まで続いております。

その小学校の学校運営協議会の一員として、この度 学校運営の一役を担うことになり、子供たちのために尽くしたいと思っております。今後何かとご迷惑をかけることと存じますがよろしくお願い致します。



新役員紹介

学校運営協議会の一員になって

さくらの子応援隊部会 村松相司

今年度から瀬谷さくら小学校運営協議会の一員として参加することになりました。よろしくお願い申し上げます。

学援隊の活動に参加して8年目を迎えました。下校の見守りから始まり、青色パトカーでの巡回パトロール、算数補充・サポート等の授業で子供たちと触れ合う機会が多くなり。学校以外でも顔を合わせると子供たちの方から挨拶してくれて非常に嬉しく思います。



また、毎週木曜日の朝、アルミ缶の回収作業が終了するころから、1年生から6年生の「挨拶隊長」が校門に並んで、登校してくる生徒に大きな声で『おはようございます。』と声かけを行っています。お互いに挨拶を交わすことで、学校生活も明るくし、楽しい1日になると思いますので是非続けてほしいと思います。

今後も、子供たちの登下校の安全と事故防止に努めて参りたいと思います。

新役員紹介

さくらの子と一緒に

広報・学校評価部会 芦田順子

6月になって朝学援隊の見守りに立っていると、あるお宅の軒先からツバメが3羽飛び立ちました。近くで親鳥らしいのが電線に止まっていたとその周りを子ツバメがぐるぐると何回も廻っていました。カラスが近づくと何倍も大きな体に向かって親ツバメが攻撃を仕掛けています。その姿に驚き感動しました。子ツバメをカラスから守るために必死な親ツバメの様子を見ていて、思わず瀬谷さくら小の子供たちと重ね合わせてしまいました。



この子ツバメと同じように子供たちは、先生や保護者・学援隊の皆さん又ご近所のおじさんおばさん達に見守られて、いろいろな経験をして元気いっぱい過ごしているのだなと。立場はそれぞれちがってもみんなの思いはひとつ、子供たちが安心安全なより良い環境ですくすくと大きく育ってほしい事だと思います。

私も学援隊に参加して約6年あまり、このような思いを持ちながら毎朝子供たちの笑顔を見るのがうれしく楽しんでやらせていただいています。運営協議会の役員としては初めてのことばかりですが、今後も子供たちのためになるように元気に頑張っていきたいと思っています。

退任役員挨拶

お世話になりました

(前) 広報・学校評価部会 西村快晴

瀬谷さくら小学校が誕生して6年が経ち、一期生として入学した児童たちもこの3月に卒業してきました。私も、学校運営協議会委員になって6年が経過し、新しい人にバトンタッチした方がいいと考え、委員の辞任を申し出た次第です。在任中、委員の方々には大変お世話になり、ありがとうございました。

思えば、平成20年4月に町内会長を引き受けたのと同時に、「下瀬谷小・日向山小」小規模校再編検討委員会が始まり、それ以来、小学校に深く関わることになりました。お陰様で、下瀬谷地区はもちろんひなた山地区の皆さんとも親交ができ、今では、私の貴重な財産になっています。

学校運営協議会では、6年間、広報・学校評価部会に属し、「学校運営協議会だより」を発行してまいりました。開校から間もなくは、開校式や校歌・校章の作成、教育支援活動開始、さくらの子基金発足など、記事になる題材が豊富で広報活動は順調でしたが、最近はややマンネリになっていたと反省しています。また、学校評価に関しては、何をやったらいいかずいぶん悩みましたが、「教職員の自己評価に対して委員が意見を述べる」今の形に落ち着きました。平成23年度には、8ページにわたる各先生方の振り返りが協議会に報告され、先生方が授業のほかにも忙しく活動されていることを知るきっかけになり、そのことを地域へ発信する広報の必要性も感じました。最後に、学校運営協議会委員は辞任しましたが、学援隊や



さくらの子学援隊など子供たちへの学援活動は、これからも継続していきたいと思っていますので、よろしくお願い致します。

リレー随想

算数サポート活動の効果に期待する

ひなた山第2自治会 佐藤軍吉

私は学援隊活動として、週2回の交通見守り、さくらの子学援隊の算数サポートとクラブ活動支援に参加しています。これらの活動を通じて通学時の様子や学校の階段を勢いよく駆け下りて来る子供たちから、元気パワーを注入して貰うことで生活に張合いを感じています。私には、算数サポート対象の子供たちと同学年の三人の孫（小学3、4、5年）がいます。現在の楽しみは、畑作り、時々孫達に会うこと、日向山地区全体の子供たちと通学時に週2回会えることです。また、算数サポートの教室で子供たちと話が出来ることも含めて、学援隊活動は日々の生活のエネルギー源の一つになっています。



算数サポートでは計算問題を数多くこなした正答者から合格印の赤丸を要求されますが、限られた時間内で学援隊関係者が協力できる事として、計算問題の回答に赤丸を付ける作業だけではなく、より応用問題を多くして問題の読解力と計算式の立て方等の創造力を養う考える算数学習に老人パワーを役立たせて、算数に興味を示す子供たちを増やしたいものです。

また、3~4年生になっても九九が苦手な子が見受けられます。そこで、3年の算数サポートでは、最初に全員で九九を復唱する等の工夫があっても良いのかもしれませんが。

かなり前の事になりますが、JICAから依頼された講義を通じて東南アジアの若者達に会う機会がありましたが、彼らの新知識の習得に臨む積極性に感銘を覚えました。さくら小の子供たちも小学校高学年や中学になると将来の進むべき道（夢）を模索することになるとと思いますが、想像力豊かな人に成長することを期待しています。

【活動報告】

1. スクールゾーン点検

4月29日、スクールゾーン点検作業が行われ、PTA、交通安全協会の方々と共に、学援隊も大勢が参加しました。

下瀬谷地区2班、ひなた山地区2班に分かれ、ゾーン内の危険箇所や道路標識、道路標示のどの不具合がないか点検して回りました。その結果はスクールゾーン協議会で報告、改善提案することになっています。

2. 交通安全指導

5月31日下瀬谷地区、6月3日ひなた山地区、1・2年生を対象にした交通安全指導が行われました。

「横断歩道を渡る時は、信号が青になっても、左右をよく確認して、手を挙げて渡りましょう」「信号機のない歩道の時は、特に左右の安全を確認するように」との指導に対して、子供たちからは、“大人が信号無視をよくしているよ”という反論もありました。保護者の方をはじめ大人の方も交通ルールを守りましょう。



3. 算数サポート



迎ですので、支援できそうな方はご連絡ください。

5月24日から、今年も算数サポートが始まりました。算数補充やクラブ活動支援と合わせて、42回の教育支援活動が行われます。現在登録している教育支援員は40数名で、1回に参加できる人は20数名で、3クラスを分担しています。算数補充は、掛け算の九九、4年、5年、6年を同時に別室で行うため、できればもっと多くの支援員が必要です。毎回の参加でなく都合のつく日だけの参加でも大歓迎

4. 1年生と学援隊との交流会

6月8日・17日・21日の3日間にわたって、1年生との交流会が開かれました。まず初日は学援隊の方々の自己紹介から始まり、子どもたちからのインタビューも受けました。2日目は「昔遊び」として、コマ、メンコ、けん玉、お手玉等の遊びをみんなで楽しみました。3日目は1年生の生徒さんから「お礼の会」で手作りの折り紙等を学援隊の方々にプレゼントされました。最後に生徒から質問コーナーがあり、学援隊をやるというくらい貰えるの？とか、ボランティア何でやっているの？とか意外にお金に関する質問が多かったことが印象に残りました。



5. 学援隊研修会・総会

6月24日、飯島瀬谷警察署署長、金子瀬谷区福祉保健センターこども家庭支援課学校連携課長をお招きして総会が開催されました。総会に先立ち「特別防犯講習」として飯島所長より、最近の瀬谷区の犯罪発生状況、振り込め詐欺の被害状況の説明の後、強姦(痴漢)等に襲われた時の距離の取り方等について実技をもって研修を受けました。



その後行われた総会では、27年度決算報告、監査報告、アルミ缶回収報告、27年度活動報告、28年度新役員紹介、28年度予算案が全会一致で承認されました。

総会后、懇親会が開かれ各自治会の参加者の紹介、学校の先生方の紹介、PTAの役員の方々の紹介等があり和やかな雰囲気の下で今年度の活動を約束して終了いたしました。

【編集後記】

今年度から広報担当になり初めての会報発行で、執筆依頼から編集方法等全く分からない素人で前任の西村さんに、色々教えて頂きながらやっと編集することができました。執筆者の記事の長さによって、同一ページに収まらなくて読みにくいところもありますが、初回ということでご勘弁願います。平成28年度の取り組みにもありますように、広報としての課題もあります。皆様のお知恵を拝借しながら改善していきたいと思っておりますのでよろしくお願い致します。(渡辺・芦田)

学校運営協議会だより
平成28年度・第1号
平成28年8月5日
横浜市立瀬谷さくら小学校
学校運営協議会
発行責任者
会長 網代宗四郎
編集
広報・学校評価部会